

開設時の
私立岩手病院
を支えた
先人たち



院長 杉立義郎 (すぎたちよしろう)

明治元年(1868)~昭和8年(1933)

昭和3年5月25日に岩手医学専門学校を退職するまでの31年間に渡り、院長の重責を担った。

明治30年4月20日、幾多の困難を乗り越え、私立岩手病院は開設されました。県民にとって、待望久しい総合病院であり、大きな期待を背負っての開院でしたが、俊次郎ら岩手病院経営陣はその期待に応えるべく、思い切った人事を断行しました。

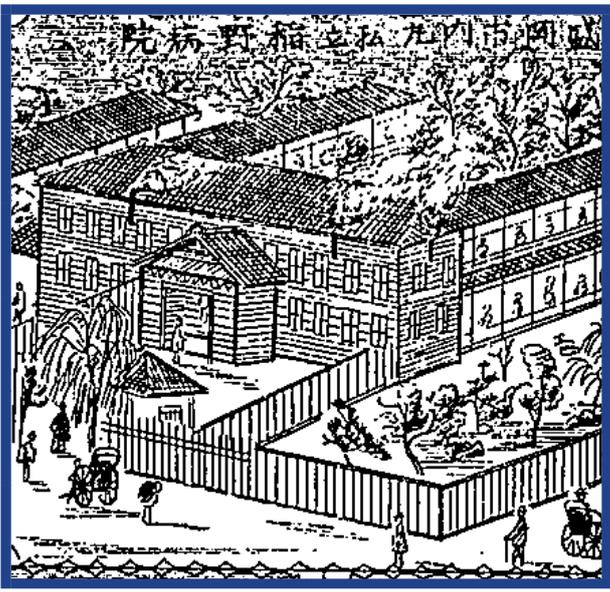
帝国大学医科大学の新進気鋭の若き外科医(当時29歳)、杉立義郎の招聘です。破格の待遇で院長として迎えられた杉立は、就任するや、難しい大手術を次々と行い、新生岩手病院の名を県内外に広め、その重責を遺憾なく全うしたのです。

西海枝スクは岩手病院の初代産婆兼看護婦長を務めた人物であり、いわば、本学の初代看護部長とも言うべき存在です。岩手病院の開設と同時に婦長という要職に就き、岩手病院の産婆や看護婦を督励してその業務に当たらせたとされています。また、院内において、月1~2回程度開かれていた「一和会」という、学識経験者を招いての講和会を取り仕切り、看護婦生や産婆生の学識や品性の陶冶と、生徒相互の親睦を図ることに腐心して、患者の看護のみならず学生の教育にも粉骨砕身尽力した人物です。



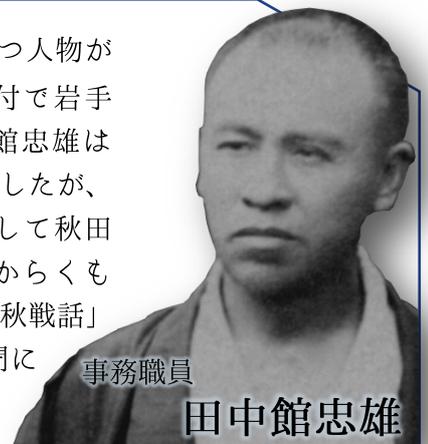
産婆兼看護婦長

西海枝スク



絵は稲野病院、木造2階建て、後の岩手病院である。開設時、木造であった病院を残す写真・絵は希少である。今回、盛岡市立図書館の許諾を経て掲載に至った。

事務職員の中にも異彩を放つ人物がいました。明治30年7月6日付で岩手病院の書記となった、田中館忠雄は前職が盛岡市第二科の書記でしたが、若干18歳の時に盛岡藩士として秋田戦争(戊辰戦争)に従軍、からくも生き残った人物で、後年「盛秋戦話」という回顧録を岩手毎日新聞に遺しています。



事務職員

田中館忠雄

【発行・お問い合わせ先】

岩手医科大学企画部 創立120周年記念事業事務局

TEL : 019-651-5110 (内線 : 7022)

E-mail : anniv@j.iwate-med.ac.jp

WEB : <http://iwate-med-120th.jp/>

創立120周年まで

あと150日



Iwate Medical University 岩手医科大学 発行年月日 2016.11.21